

個人質問



宍倉 弘康 議員

防災対策について

Q 異常気象による自然災害が多発している中、昨年10月に発生した台風26号の集中豪雨が記録的であり、市に多くの被害が発生した。2月にも、河川の氾濫による被害が発生している。被害が起こらない、また被害が減災になるには、市は具体的にどのような対策をしていくのか。

A 市長 災害に強い市をどのように造るのかということですが、作田川につきましては、改修が計画通りに進んでいません。成東堰は、基礎部分ができっていますが、できるだけ早期に完成させることが、喫緊の課題

であると思います。上流についても、まだ改修が済んでいませんので、改修を急ぐべきと思っています。河川の改修は、県の事業ですので、早期の改修をお願いする努力をします。

Q 河川改修の見通しが、ついていないということか。

A 都市建設部長 作田川の改修工事は、床上浸水対策緊急事業ということで、平成15年度からスタートし、一年延長して平成20年度までの事業でした。事業区域は、境川と作田川の合流地点から源川までの9千100m、源川上流、460m、計9千560mとなっています。一番のネックは、用地買収が思うように進まないことで、進捗状況は、計画に對しまして58・5%です。いつ終わるかは、明確な答弁はできません。

Q 台風26号の床上浸水は、27件のうち日向地区が24件あり、その

内訳は、森が13件、雨坪6件、木原5件となつている。これは源川と八街から木原を通る河川との合流地点で氾濫する事が大きな要因と思う。行政の立場として、どう考えているか。

A 都市建設部長 河川改修は原則、下流部分からであり、ご指摘の部分で改修しても、その下流で問題が起こります。市で出来る部分は、早急に何らかの手立てをしていきます。



改修工事を行っている成東堰

Q 源川にある調整池は、集中豪雨に対する機能は果たしているのか。

A 都市建設部長 調整池の維持管理は土木事務所が行っています。通常は自動で水位調整を行っています。台風などの出水が予想される場合は、県の職員によって、手動操作で強制排水を行って水位を下げています。現地を確認しましたが、源川の河川改修をしないと、機能的には、非常に厳しいと思っています。

Q 異常気象が多い中で、集中豪雨がいつ来るかわからない。一度床上浸水を受けた人は、集中豪雨の度に、不安を持ちながらの生活をしている。その思いを行政としてどう思うか。

A 都市建設部長 市で出来ることは、市で対応していきまますが、県の事業ですので、土木事務所と協議しながら、早期の完成に向けて進めていきます。なお、河川に

土等が堆積していますので、その浚渫につきましては、下流から順次実施しているとのことです。

Q 八街から木原に来る河川も、集中豪雨の際にはかなりの水量になり氾濫する。上流に調整池が必要と思うがどうか。

A 都市建設部長 上流に調整池を設置するとなると、現在実施している河川改修計画の見直し、及び整備中の河川断面の見直しなど、改修工事への影響が考えられるので、引き続き、現在の計画で整備を進め、早期完成に努めると土木事務所から聞いています。

ふるさと納税について

Q ふるさと納税の目的と現状はどうか。

A 総務部長 ふるさと納税制度は、地域間格差や過疎などによる税収の減収に悩む自治体